



みんなの水泳……日々徒然

2021年の東京2020 ～“東京2020+1に向けて”～

▶はじめに

前回は、2021年に向けてパラ水泳界の現状やパラ水泳の競技規則についてお伝えしました。2021年になり、延期された東京2020パラリンピック大会当該年となりました。今回も引き続きパラ水泳界の現状やパラ水泳の競技規則についてお伝えしたいと思います。

▶2021年、国内外のパラ水泳競技会は…

2021年開催の東京2020パラリンピック大会に向けて、設定された期限までに国際クラス分けを受けなければならない選手（ステータスがRやR2020、R2021など）が一定数いること、MQS/METを突破する機会が限られていることが喫緊の課題となっており、各国は国際クラス分けの設定された大会の実施を切望していると思われます。WPSも各種調整にベストを尽くしているところだと思います。

国際競技会については、2020年12月18日にWPSが2021年のワールドシリーズについて暫定として次の日程を発表、現時点（2021.3.12）では下記の通りです。

●2021年WPSワールドシリーズ日程

イギリス	シェフィールド	4/8～10
アメリカ	ルイスビル	4/15～17
イタリア	リニャーノ・サピアドーロ	4/17～18
オーストラリア	開催都市調整中	日程調整中
ドイツ	ベルリン	6/17～20

この5つのワールドシリーズ大会は、国際クラス分けなどを含めて、東京2020大会に向けて各国にとって非常に重要なステップとなることは間違いありません（2017年から始まったWPSワールドシリーズ大会は、2019年には84か国から1300名以上が参加しましたが、2020年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、メルボルンとベルリンの2大会のみ開催でした）。

また、2021欧州オープンパラ水泳選手権大会が2021年5月16～22日にフンシャル（ポルトガルのマデイラ諸島）で予定されています。今回も前回の2016年大会同様に「欧州オー

ペン」という名前になっている通り、欧州地域以外の選手も参加可能な設定です。フンシャルは、次回のWPS世界選手権の開催予定地でもあります。

東京2020大会後には、2021年12月1～10日にバーレーンにおいて、アジアユースパラ競技大会の開催が予定されています。

●APC（アジアパラリンピック委員会） 公式ホームページでの発表

<https://asianparalympic.org/news/1344/>



国内においては、第37回日本パラ水泳選手権大会が2021年3月6～7日に静岡県富士水泳場で開催されました。



毎年、記録会を行っているこの会場。今大会は無観客での実施となりました



手指消毒、検温、ソーシャルディスタンスの確保など新型コロナ対策を徹底



東海林大選手（S14）が男子100mバタフライで日本新・アジア新を更新



メディアの数も制限し、試合後の選手の取材はリモート会見で行われました

また2021ジャパンパラ水泳競技大会（横浜国際プール）が2021年開催の東京2020パラリンピック競技大会の代表の選考戦を兼ねて、（欧州オープンと同じ週である）2021年5月21～23日に予定されています。

PI, II, VIとは

パラスポーツにおいて、よく出てくる言葉です。

PI: Physical Impairment

II: Intellectual Impairment

VI: Vision Impairment

PIは肢体不自由、中には「身体障がい」としていることもあります。場合によって、身体障がいには聴覚障がいと視覚障がいも含まれるとされているので、厳密に表現する場合には肢体不自由とするのがいいかもしれません。IIは知的障がい、VIは視覚障がいのことです。

パラ水泳の現場でも、クラス分けや運営場面において、「ピーアイ」、「アイアイ」「ブイアイ」（正確にはヴィアイですが）という言葉を使うことがあります。

2021年開催の“Tokyo2020”について…

開会式	2021年8月24日（火）
パラ水泳競技	8/25（水）～9/3（金）の10日間
午前セッション	予選：9:00開始
午後セッション	決勝：17:00開始
閉会式	9月5日（日）
選手枠	620
実施種目	146

参考

選手枠の配分方法などは、「Tokyo2020 Paralympic Games Qualification Regulations」に記載されています。

https://www.paralympic.org/sites/default/files/2021-02/2021_02_11%20Tokyo%20QG.pdf

（最新版は2021年2月版）



パラ水泳競技規則

●両手タッチ

平泳ぎとバタフライの折り返しとゴールタッチでは、「…両手が同時にかつ離れた状態で…」とルールで定められています。

しかし、障がい上の理由で、クラス分けにおいて「2」「4」というCoE（コードオブエクセプション：個々の選手が持つ例外事項）が付与された場合には、片手でのタッチが、また「3」「5」というCoEが付与された場合には、両手で同時タッチの意志を見せながらタッチすればOKとされます。



バタフライで北京とロンドンの2大会でメダルを獲得した、右半身運動機能障がいの小山恭輔選手（S6：現在はS7）の片手ゴールタッチ。バタフライについては2018年の競技規則の改訂でいくつかの変更があったので、指導においては注意が必要です

●移動手段

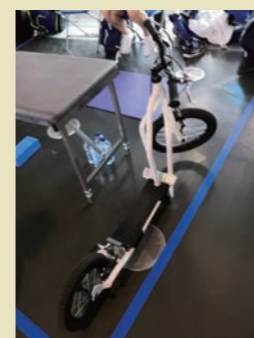
前回、パラ水泳のレースでは義足などを使用しないとお伝えしましたが、競技会場内の更衣室やプールサイドの行き来、選手村での移動などでは、様々な移動手段が用いられています。

例えば低身長選手、低身長ゆえ歩幅が小さい、選手により関節可動域に制限があることから、移動にかかる負担が大きいなどの理由で、キックボードやストライダーなど（一般には子供用などの）

乗り物を移動支援のために利用している選手がいます。

選手村などだけでなく、競技会場でも使用して、レースの際に自レーンまで利用することもあります。パラ水泳では“通常”の光景でもあります。車いすと同様、という認識ということかもしれません。

東京2020大会でも見ることもできるかもしれませんね。



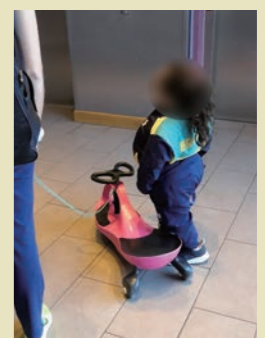
サドルがなく立って乗るキックボードタイプ



ペダルのない自転車、ストライダータイプ



車いすに装着する簡易電動ユニットタイプ



いろんな道具をカスタマイズして使用

●パラ水泳ではTOはスタートリストが必要

一般の水泳競技会におけるジャッジラインのうち泳法審判や折り返し監察では、スタートリストを持ちませんが、パラ水泳では、CoEを確認する必要があるため、泳法審判や折り返し監察などにあたる競技役員はスタートリストを手に持って従事します。

オリ水泳とパラ水泳、こんなところにも違いがあります。大会観戦の際に確認してみてください。



スタートリストを持って泳法をチェックする審判員